

研究課題別事後評価結果

1. 研究課題名： ソーシャルキャピタルの醸成を支援するロボットシステム

2. 個人研究者名

飯尾 尊優（同志社大学文化情報学部 准教授）

3. 事後評価結果

人々の信頼関係や繋がり概念である「ソーシャルキャピタル」醸成に向けて、自立対話型ロボットシステムの開発を行い、ロボットと人との対話効果の測定や、実環境での人の行動変容を明らかにする実証実験を行った。

実環境に配備が容易な自立対話型ロボットを作成し、多くの社会実験を通して、ロボットの褒めによる人の学習能力向上、ロボットによるアンケート回答率向上など、行動変容の可能性を示した。特に、複数のロボットを用いることで、対話能力や表現能力が人より劣るロボットでも、会話の継続、すなわちソーシャルキャピタル醸成に繋がると示したことは興味深い。

今後は、高齢者の支援、子供の見守り、生活習慣病対応など、社会的なコストが大きい分野への活用効果の調査、複数台ロボットでのマーケティング効果の調査などを実施すると、社会デザインへの応用がさらに広がる可能性がある。社会実装に向けて、企業等との共同研究を期待したい。